

自駒妃登美の
なでしこ
歴史物語
15

日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

博多の歴女 しらこまひとみ
白駒妃登美

父親の期待を一身に背負って

戦国最強軍の娘・立花闇千代①

もし立花軍が関ヶ原に間に合っていたら……

数年前、私はあるテレビ番組に呼ばれました。全国各地の「歴女」が集い、私は博多の歴女として出演したのです。

テーマは「関ヶ原の戦いで西軍（石田軍）が勝つにはどうすればよかったのか」というもの。全国の歴女がいろんな見解を披露するなか、ゲストの歴史学の先生がことごとく論破していかれるんですね。そしてついに私の番が回ってきたので「筑後の立花軍が関ヶ原に間に合っていたら、勝敗は分かんかったのでは」と発言したんです。

現在の福岡県の柳川を治めた立花家は、関ヶ原では西軍につきましました。そして東軍に味方した大津城を攻め、見事に攻略します。ところが大津城引き渡しの日、関ヶ原では東西両軍の主力がぶつかり合い、たつ

た半日で西軍は敗れ去ってしまったのです。東軍の大将・徳川家康が恐れ、「立花三千の兵は他家の一万に匹敵する」と、その強さを謳われた立花軍が、一日早く大津城を陥落させ、関ヶ原の本戦に間に合っていたら……。私はそうコメントしたんです。

すると、その歴史学の先生が「それです、西軍が勝てたかもしれない唯一の可能性はそこなんです」とおっしゃいました。そんな戦国最強として名高い立花家の一人娘が、今回ご紹介する闇千代です。彼女は、その資質を認められ、わずか七歳で父親から城主に指名されるのですが、今回と次回ではそんな彼女の勇敢さと、夫の宗茂と育んだ夫婦愛についてご紹介いたします。

加藤清正が恐れた娘

闇千代はとても美しい女性だったようです。



立花闇千代 (1569-1602)

筑後国（現在の福岡県南部地域）を治め、戦国最強といわれた立花家の一人娘。現在、立花家邸宅跡にある料亭旅館「御花」は、観光名所としても賑わっている。

【イメージイラスト】アオジマイコ